

# 二松學舎松苓會報

昭和62年12月1日創刊  
平成23年3月18日発行  
二松學舎松苓會  
〒102-8336 東京都千代田区  
三番町6-16 ☎03(3261)7408  
振替口座 00180-5-160343  
印刷 (株) サンセイ  
〒103-0023 東京都中央区日本橋  
本町4-11-10 ☎03(5614)2515

## 卒業生に贈る言葉

学長 渡辺 和則



日本経済は依然として長い停滞のトンネルの中を彷徨しています。今春本学を卒業する皆さんの中には、就職を希望しながらも就職が決まらないまま社会に出る人がいます。また、今後どのようなキャリアを歩んでいけばよいかと大きな不安を抱いている人もいます。そのことに思いをめぐらし、激励を込めて、卒業生の皆さんに贈る言葉を

書きます。  
私は経済理論を勉強しているので、経済学者に関わる話から採った次のような言葉を贈ります。

「静かに行くものは健やかに行く 健やかに行くものは遠くまで行く」

これはイタリアの諺で、1870年代に現代経済学の基礎を築いたレオン・ワルラスというフランスの経済学者が挫折と失意のどん底にいるときに、父親が励ますために息子レオンに対して、「お前はまだ若いのだから、もっと良い時が来ることを希望しよう。またお前は最初の試みにおいて自分の未来に信頼を持つことができるほど十分に

成功したのだ。愛するレオンよ、だから辛抱しなさい。」そして「自分自身に向かって繰り返しなさい。」といつも言って聞かせた言葉です。これに関連して言えば作家

の城山三郎さんも『打たれ強く生きる』（新潮文庫114頁）の中で、「わたしもこの言葉が大好きで密かにこれまでの人生の支えとしてきた。これからもそうして行きたい。」と書いています。

また、『静かに健やかに遠くまで』（新潮文庫226―227頁）では次の原語も紹介されています。

Chi va piano, va sano.  
Chi va sano, va lontano.  
ワルラスの父親が言うよう

に、「キ・ヴァ・ピアノ、ヴァ・サノー。キ・ヴァ・サノー、ヴァ・ロンタノー」と繰り返すと、何となく意味が分かってくるような気がします。因みに言えば、城山三郎さんはかつて経済学の先生でした。

ところで、レオン・ワルラスは1834年に北フランスのエヴルーで生まれ、20歳の時、パリ国立鉱業高等学校（パリ・エコール・デ・ミン）に入学しました。この学校は日

## 東北地方太平洋沖地震御見舞

平成二十三年三月十一日（金）午後二時  
四十六分発生の東北地方太平洋沖地震に  
依る災害に就き謹しんで御見舞申し上げます

二松學舎大学  
二松學舎松苓會

産自動車のカルロス・ゴーン社長が卒業した大学でもありません。ワルラスは鉱山技術の勉強には興味がかず退学をし、4年間、哲学や文学、さらには経済学に、模索の没頭を続けるのでした。しかし、父親の強い奨めによって、24歳の時に経済学の研究に没入することを決意しました。

彼は「土地は稀少であるため経済発展と共に地価は激騰し、そのことが将来の経済発展の制約になるであろう。だから土地は国有化すべし。」という彼自身の社会思想を持っており、それを理論的に正当化しようとしていました。

しかし、彼の価値観は当時のフランス経済学会には受け入れられず、そのために浪人生活は1870年(36歳)にスイスのローザンヌ大学に経済学の教授として迎えられ、までの12年に及びました。

しかし、その間の熱心な研究活動は、1874年に、市場原理による資源配分の効率性を扱った名著『純粹経済学要論』として結実しました。そして終には、彼は今も燦然と輝く経済学の巨星となった

のです。

人生において好スタートを切れなかったからその後の人生もうまく行かない、というものではありません。ワルラスの人生が示すように、始めに苦しむ者は後で笑うということがよくあります。

逆に、始めに幸運をつかんだ者が後で大きな失敗をすることもよくあります。

いずれの場合であつても、「苦しい時には焦らず、順調な時には謙虚に」、目標を見つめながら、かつ眼前の事柄を一つひとつしっかりとこなして行くことが、結局は目標への近道になると思います。

各地の松苓会支部には、ここで紹介したワルラスのような尊敬すべき生き方をしている諸先輩が大勢います。私は各地の支部総会に出席し、諸先輩からいろいろなることを学んでいます。それは学長をしてよかつたと思う最大の点です。

今春卒業する皆さんも所属する支部総会にぜひ出席するようにしてください。きっと諸先輩方とのよい出会いがあるでしょう。

最後に、今春卒業する皆さんと松苓会の諸先輩方のご健

## 大学卒業と松苓会

松苓会会長 神津 賢一郎



### 〈大学卒業〉

毎年、桜の花がほころび千鳥ヶ淵に美しく照り映える三月二十五日に九段会館で二松學舎大学の卒業式が挙行されます。卒業した皆さんは二松學舎大学が母校となり、その母校で学んだ仲間の集まりが同窓会であり、「松苓会」会員となります。この名称は第一回卒から続いている組織名です。

### 〈松苓会〉

松苓会は、本部のほか北海道から沖縄に至るまで各都道府県に支部があり、親睦と互助の活動をつづけています。

勝とご多幸をお祈りします。

しかし総じて、連帯意識、帰属意識は若い世代になるにしたがって薄れてきています。つまり、支部活動としての行事への参加に若い方が少ないのが現状です。

### 〈若い会員の参加〉

たまたま支部行事に参加した若い方の支部報に寄せた記事を見て、共通したところが存在は知っていたけれど、どこか自分には関係ないような気がしていた。」という点です。しかし支部行事に初めて参加した方が次のように述べています。

### 71回生・静岡県支部会員

「不安な気持ちで出席したけれど先輩の皆さんは気さくに、その時代時代の大学生活、いつの時代も千鳥ヶ淵の桜は美しく、今は無き木造校舎の話など私の知らない二松學舎大

学を知る事ができた。これからも是非出席したい。」(簡略)

73回生・群馬県支部会員  
「二松學舎大学を単なる出身校から母校へと変える出来事になった。二松學舎大学については特にこれといった思い入れも持たず、軽い気持ちでの初参加でしたが、そんな軽い気持は吹き飛ばされてしまった。参加された方々は二松學舎大学に深い思い入れや愛着を持ち、それを語ることが出来、私は圧倒されてしまった。二松學舎大学は単なる出身校ではない母校なのだ。この母校のために何かしなくてはならないと思えるようになった。」(簡略)

### 〈松苓会活性化の鍵〉

この若い会員の発言から言える事は「最近の卒業生には母校への帰属意識がない。」などと簡単に言い切る事は出来ないという事です。先輩・後輩の絆、松苓会行事への参加の呼びかけ等に鍵があると思います。各支部長さんのご努力と、若い会員の息吹に期待したい。

松苓近畿活動報告

松苓近畿平成23年辛卯新春互礼会

磯 水絵先生の  
「興福寺今昔」を学ぶ

松苓会近畿連絡協議会

2月5日(土)午後3時から中世文学の説話ものに造詣深い母校教授の磯水絵先生をお招きして「興福寺今昔」についてのご講義を拝聴する。午後4時30分から新年会を開催。

来賓として母校学長の渡辺和則先生、文学部教授の磯水絵先生をお迎えし、参会者は三重県からは杉野茂(14)と小川直紀(44)、奈良県からは末吉榮三(12)と辻一(39)と木下善国(39)、和歌山県からは明治利隆(47)と慈幸正法(48)、大阪府からは西田清(35)と浦壁健三(44)と斉藤衛(49)の総勢12名が会場の大坂ミナミの料亭「鳥よし本店」の鶴亀の間に「やあ、お久しぶり」の挨拶で早

や和氣が堂に醸しゆく。

末吉代表は同窓会運営の基幹は正確な会員の動静把握にあり、近畿は一昨年に支部結成60年の節目行事として近畿二府五県の総合会報の発行を試み、その事業の推進には当時353名の会員全員に対し複数回に亘り連絡照会を行った。莫大な事務費に対して本部よりの支部育成助成費の恩恵に預かり、この大局を乗り越ええました。そのことよって得た貴重な資料はその後の本部並びに母校大学との折衝と交流を重ねて今日の資料に示す287名(男169名、女118名)が極く正確に近い数字で、今後はこの数字を疎かにしない活動を一致協力の姿で進めてゆきたい。



さらに、今後、松苓会本部並びに母校大学のいっそうの

近畿に支部を設けて60年  
記念の新聞を発行する

松苓会近畿連絡協議会 代表 末吉 榮三

昭和23年から平成5年までを近畿支部と呼び、平成6年から各府県支部ごとの地域に根ざした色濃い活動体制に発展分化しました。その連携を図る組織として「松苓会近畿連絡協議会」を発足させた。

ご支援をお願いしますと挨拶をする。渡辺学長からは全学の九段集約に平成25年を目指し、附属高校もふくめての質と量との向上を図ってゆきたい。磯先生からは同窓会活動の中で、今、国際政経の方々の不振が配慮すべき事項と思われる。全学挙行の松苓会への育成にお力添えを頂きたいと話される。

三重の杉野茂氏の乾杯で互礼会を開く。今年はとくに個々の「近況ばなし」に花が咲いた。閉会と万歳三唱を和歌山の明治さんに首頭を頂いて幕を閉じる。

近畿支部の創設時にはわずかに11名の同窓生を知る有様であった者が支部活動を起こして、今日307名の同窓生が各府県に亘り活躍している。その創設時に先輩が言われた言葉が今も脳裏に残っている。

それは「二松は冷たい」のお叱りであった。学校が卒業生に対しての冷たさを言った物か、同窓生の絆の希薄、校友の淡白、交流の無さを指摘しての物か。ともかくも襟を糺す思いで謹聴した。

翌年は学制改革によって旧制の諸学校が新制大学に移行する審査が行われる時であった。二松學舎専門学校は審査に合格して二松學舎大学となり、卒業生の回数呼称は引き継がれた。専門学校の最終卒業生回数が20回で、新制大学の1期生は21回生と記されている。

思うに、専門学校は昭和3年に開校して20回までの卒業生数が1440名と聞く。今年のカミングデーに参加されたこの頃の卒業生が今の母校を眺めてその飛躍さに驚きの声を漏らしていた。

松苓会が近畿に支部を設けた時はこうした節目の時であった。新制大学発足以伴い母校の発展には卒業生の力が必要であるとも先輩から諭された。ともかくも「二松は冷たい」の一語は今も私の脳裏か



ら離れない。  
40周年は6期の井戸完先輩が支部長で大坂なんぼの「ミユヘン」で開催した。  
50周年は私とその任にあって「50に因んで50名を集めよう」と呼びかけ、51名の参会を得て盛況なる記念式典と記念講演会を大阪の「ホテルセリユウ」で幕を開けた。  
その日に編んだ「松苓近畿50年」の記念誌は、内容の濃いものが出来上がった。編集に携わって頂いた方々の顔は今も目頭に浮かぶ。「手の空いた方からどうぞ」と配膳の

気配りに奔走して下さった浦壁健三(44)さんの存在など。  
母校の事、同窓会の事、朋友の事に誠心誠意尽くして下さる姿に「二松は冷たい」の言葉は改めて自らを省みる事でした。  
今年近畿に支部を設けて60年になる。還暦の年に因む記念行事は何がよからうかと自問自答する。近畿に存在する同窓の全員307名が一堂に会して消息を確かめ合い、交流を深め、それぞれの府県が、この機会に特色ある活動の端緒を見つけ出して下さる機会が出来ればどんなにか素晴らしい事であろうかと念頭に浮かぶ。しかし、その機会と言うは易しくて行い難いとして月日は待っていてくれな

い。  
かくして、この創設60周年の記念をこの事の実現に生かしてみては、と昨年来から府県支部長会議を重ね総会に計画を述べて了承を受けた。  
即、実行委員を決めて「全員紙上参加の60周年新聞記念号」の発行をスタートさせました。  
本部からの活動助成費に甘んじる事なく自助努力としてのカンパをも行つてこれらの推進に当たりました。  
充分でない予算の中での事業の推進には少しでもお金のかららない方策は、との秘策の末、事務局の斉藤衛(49)さんに自らのパソコンを活用して打ち込みをして頂き、約10ページに成る新聞記念号が出来上がりました。  
みんなの力を頂いて出来上がりました。  
ご繁忙な折、松苓会長を始め、母校の理事長、学長さんからのご寄稿を頂き、そうして支部創設の草創期にお世話になりました菅根順之先生、小林公雄先生には当時の思い出を寄せて頂き、素晴らしい記念号の仕上げにご協力下さいました。深く御礼申し上げます。

この記念号の発行を機会に近畿並びに本部、又、母校に対してのご意見、ご要望などお寄せ下さいますれば、この機会が生き、又、今後の事業の推進と活性に役立ち得る事と思えます。一層のご指導をよろしくお願い致します。  
松苓近畿創設60年を壽ぎ、庚寅の新春を祝う会を催す  
この新年互礼会の伝統は61年前の昭和24年の1月2日に始まる。当時、この松苓会の近畿に支部を創設する必要性を説かれた今は亡き1期卒の黒川喜久郎さんが毎年の新年の2日の午後に松苓会の互礼の酒席を私宅に用意するから遠慮なく集まって親交を温めてくれとの達示に始まった。以来、この礼節を重ねるに61年の歳月を数える。  
今回の互礼会には珍客をお招きした。初代会長の黒川先輩のご子息から「おやじがお世話になった二松學舎の方々に松苓近畿の還暦の節目を機にお会いして数々のお礼を申し述べたい」と、父の後を継ぐ大同化学工業株式会社社長に在る黒川一氏をお迎えした。  
平成10年2月20日(土)、午後2時に大阪中央区の料亭「鳥よし本店」に渡辺和則学長と神津賢一郎会長と黒川一氏を迎えて、末吉榮三(12)と杉野茂(14)と辻一(39)と関岡昌子(40)と浦壁健三

(44)と武内昭徳(47)と明治利隆(47)と斉藤衛(49)の13名が挙つて新春を賀し、この度の60周年記念事業の新聞記念号の発刊を讃え合い、友の健在に安堵し母校の隆盛を慶び合つた。  
殊に、この度の九段上に竣工を見た「九段3号館」の活用による成果を、渡辺学長は二松學舎の九段集約を教育研究環境の量的、質的の両面に亘る改善を企図する機会と捉え、そのために私はより一層に「学生を大事にする大学」への進展を図りたい。その成果こそが二松學舎大学での4年間で育む教育保証であるに違いない、と述べられ感銘を深くした。  
孔子の曰くに「学ぶに大切な心ざまは何ですか。」との弟子の問いに答えて、それは「恕」ではなからうかと説いておられる。  
松苓近畿60周年企画の新聞記念号の発刊の成果  
同窓会運営の根幹的業務として第一に挙げられるものは会員の動静を正確に把握する

ことです。松苓近畿では昨年10月に発刊しました新聞紙上で支部概要の項で会員数を307名と報じました。今回の事業推進に伴う通信連絡業務によって、わずか3か月の短い期間で得たものは会員の動静数です。307名の会員数が正確な会員数として285名となりました。減の22名の内訳は新たな物故者の判明と「あて先に居らず」との配達物の返戻数です。

本部事業の「全国支部の活性化助成」に感謝

個々様々な同窓、同期会活動の運営は原則的には各々が自発的な自助努力によって運営する姿が好ましいと思えます。

しかし、松苓会は会則の定めに全国47都道府県に支部を設けてその活性を図ると述べられています。

自助努力的に、運営会費を設ける話をする、決まってしまう「会費の二重取り」の声がある。何れの学校でも同窓会組織を有し、卒業に際し「同窓会費」なるものを納めている。

「この会費は」という質疑が起ころのである。

こうした現実の中で本部は「全国支部の活性」を推進するために本部事業はどうあるべきかとの課題に取り組んで久しく、先ごろ総会等開催。支部報の発行などの支部活動の活性化に要する援護的原資の助成を行うようになった。「ありがたい」の一語に尽きる恩恵である。

「会員の動静把握」に要する通信連絡に必要な費用は馬鹿にならない。ついつい、全員に均しく洩れなく連絡することに疎漏が生じてくる。その漏れが全体的活性の道を阻害することになる。

この度の記念事業の推進企画に、本部からの助成を頂いた。複数回に亘る全会員への通信連絡が果たせた。その結果、より正確な会員の動静把握を得ることが出来た。素晴らしい成果であります。本部の支部活性助成事業に感謝する次第です。



近況の報告

今年(平成22年)の新年互礼会は、予定通りに2月20日(土)に開催致しました。渡辺学長から母校の近況報告として、平成22年度の入学志願状況状況の説明がありました。文学部の国文が1,524名、中文が313名の計1,837名で、前年度比で317名の

増。国際政治経済学部が1,143名で前年度比が317名の増。という状況で、九段上に新校舎3号館が竣工し、両学部とも九段の地で履修できる条件が満たされたことがその一因であろうと話され、さらに、二松學舎大学の学問研究が九段集約の意図の上に開花すべく努力を尽くしてゆきたいと結ばれました。

平成23年度ホームカミングデー開催予告

—卒業生〈松苓会員〉懇親会—

主催 二松學舎松苓会・二松學舎大学  
 日時 平成23年11月3日(祝) 10:30~15:30  
 会場 大学九段校舎  
 会費 無料  
 イベント 講演会・作品展示会等

松苓会・大学では、第7回ホームカミングデーを九段校舎で開催いたします。

ホームカミングデーには卒業生はどなたでも参加できますが、特に下記の卒業期(卒業後50年、45年、40年、35年、30年、25年、20年、15年、10年、5年を迎える卒業生)の皆様には改めて個別案内いたします。同期生お誘いあわせの上ご参加くださるようご案内いたします。

文学部

- 第30回(昭和37年3月)卒業
- 第40回(昭和47年3月)卒業
- 第50回(昭和57年3月)卒業
- 第60回(平成4年3月)卒業
- 第70回(平成14年3月)卒業
- 第35回(昭和42年3月)卒業
- 第45回(昭和52年3月)卒業
- 第55回(昭和62年3月)卒業
- 第65回(平成9年3月)卒業
- 第75回(平成19年3月)卒業

国際政治経済学部

- 第3回(平成9年3月)卒業
- 第13回(平成19年3月)卒業
- 第8回(平成14年3月)卒業

ホームカミングデーの参加は、松苓会事務局までお問い合わせください。

事務局 東京都千代田区三番町6-16 二松學舎松苓会  
 電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914  
 ホームカミングデー実行委員会

『第2回 桜と書と人とのコラボレーション』

日時: 3月26日(土)~27日(日)  
 場所: 九段校舎前

地域の方と書道を通して交流をはかり、色紙体験を行う。桜の下で桜を見ながら色紙に絵や言葉を書き、書道を親しみやすいものにしてほしい。参加無料!

源川ゼミ主催

# スポーツ振興と二松學舎

松茶會副會長 平田 雅利

国漢・國際政治經濟の二松學舎として頑張つてはおりますが、どうも元気がないと卒業生から言われる。そこで何とか二松學舎の名前を社会に押し出してほしい。残念ながら慶応・早稲田の名前を聞いても二松學舎の名前を社会で聞く事は殆どない。

日本の大学の中で二番目の古さを誇る二松學舎として、もう少し元気を出させてほしい。それにはスポーツ振興に力を入れ、文武両道でやってみてほしいと言ふ依頼が松茶會の方に來ます。

今から何年前かに二松學舎大学で箱根駅伝のクラブを作つて二松學舎を箱根駅伝に出そうと言ふ話が出たが、誰れも押し進める人がなくそのままになった。その時、城西大学とか群馬の上武大学とか我孫子の中央学院大学等が名乗りを上げて頑張り今では立派に箱根で走っています。それを考えると二松學舎は少なくとも十年の遅れを取つ

た。二松學舎のゼツケンを着けて箱根の山を登る選手を想像しただけで心がワクワクして來ます。

しかし、その実現の為には法人の力が必要で。何のスポーツをやるかと言ふことも、先ずは法人が本腰を入れて支援するかどうか問題です。是非理事会で、この問

## 平成22年度支部總會報告

### ◆北海道支部

#### 道南分会總會報告

9月4日(土)、函館市内の海鮮料理店で盛沢山の新鮮な海の幸を堪能しながら和やかに開催されました。当日の函館はすばらしい天気に恵まれ、久しぶりに登った函館山からは下北半島や津軽半島まではっきりと眺められました。

題を検討し卒業生の期待に答えてもらいたいと思ひます。理事会の結果をご連絡下さい。

以上の内容は平成二十二年三月二十三日の評議員会で平田が質問をしたものです。尚、この質問に対して次の

平成二十二年五月の評議員会で渡辺学長から解答があり、「二松學舎はスポーツ振興に力を入れませんが。学問の方で頑張る事にします。」との発表があった。

市内在住の同窓生は最近リタイヤしたばかりの会員が多く集まり、リタイヤ後の生活実態について交々話し合われました。

函館は氣候も穏やかで歴史もあり、人口30万人の適度な都市規模でもあるため、リタイヤ後に生活するには、とても住みやすい環境にあると思われまふ。

最後に田島分会會長はじめ、今回の会を企画していただいた



た吉川夫妻に感謝申し上げます。

#### 道南分会總會参加者

- 南部 知正 (37期)
- 田島 基義 (38期)
- 開原 正信 (39期)
- 若狭 一也 (39期)
- 荒川 到 (51期)
- 吉川 肇 (59期)
- 吉川真理絵 (60期)
- 奥村悠二郎 (36期)
- 山崎 郁紀 (36期)

#### 道東分会總會報告

10月23日(土)、昨年に引き続き、釧路市末広町「あぶ

り屋」で開催されました。今回は、遠く紋別から米川先生の書道の教え子であった菅野さんもかけつけてくれて楽しい会となりました。

その米川先生が招待会員となっている「國際架橋書展」に東京・六本木の国立新美術館で昨年12月に行われた展覧会で、安部孝さんが入賞し審査会員になったことで、またまた書道の話で盛り上がりました。

今回も、昨年に引き続き、お二人が参加者のために色紙を用意して下さい、くじ引きの結果、川谷分会會長と奥村支部長が頂くことになりました。米川先生の発案で、毎年この道東分会参加者に色紙が用意されることになりましたので、来年はより多く参加されることを期待します。

最後に川谷分会會長はじめ、この会を企画してくれた五十嵐さんに感謝申し上げます。

#### 道東分会總會参加者

- 米川 智義 (33期・釧路)
- 伊藤 正彦 (34期・根室)
- 伊藤久美子 (34期・根室)
- 川谷 文雄 (39期・北見)

菅野 敦子 (51期・紋別)  
 五十嵐 猛 (56期・釧路)  
 安部 孝 (57期・釧路)  
 奥村悠二郎 (36期・札幌)  
 山崎 郁紀 (36期・札幌)



◇秋田県支部

支部長 三浦 基

平成22年度秋田県支部総会  
 は、大學事務局長小林公雄氏  
 のご出席を頂き、平成22年8  
 月21日(土)午後5時から秋  
 田駅前のホテルメトロポリタ  
 ン秋田を会場に開催された。  
 例年高校教員の参加が多い  
 ことから夏季休業中の開催と  
 なっている。平成19年度から

の支部長職だが、今年の出席  
 者は7名と最少であった。  
 思い出を語るのではなく、  
 現職の実践成果を持ち寄る講  
 座制に取り組みたい。今年度  
 で定年退職となる。今よりは  
 時間もできるだろう。  
 昭和44年4月から昭和48年  
 3月まで在籍し、第41回文学  
 部中国文学科生として、秋田  
 へ帰った。  
 以来、秋田県立増田高校講  
 師・能代工業高校教諭・金足  
 農業高校(県教委文化課出向・  
 第5回全国高校総合文化祭事  
 務局)・男鹿工業高校・新屋  
 高校・秋田北高校・秋田南高  
 校教諭・秋田東高校教頭(1  
 年)・秋田県総合教育センタ  
 1主幹(1年)・男鹿海洋高  
 校長(2年)・国語東北大会・  
 演劇東北大会)・秋田市立御  
 所野学院高校長(2年)・中高  
 一貫教育校全国大会)・秋田  
 県立大館国際情報学院中学校  
 高校長(2年)、13校教育機  
 関、38年の教員生活、それぞ  
 れに思いが残る。改革の日々。  
 感謝。  
 平成22年度秋田県支部総会  
 出席者



◇群馬県支部

支部長 新井 喜義

松苓会群馬県支部の平成二

小林 公雄  
 (大學事務局長・秋田県出身・  
 大学38期)  
 野口 養吉(専門17期)  
 小田嶋 祥夫(大学34期)  
 佐藤 寛(大学38期)  
 三浦 基  
 (支部長・大学41期)  
 奥山 陽子  
 (監査・大学46期)  
 永井 しおり  
 (幹事・大学54期)



十三年度総会・新年会が、去  
 る一月二十二日に、太田ナウ  
 リゾートホテルに於いて開催  
 された。  
 今回は、支部会員十三名・  
 来賓一名の計十四名の出席者  
 で行われた。  
 午後四時より始まった総会  
 では、新井支部長の挨拶に続  
 いて、次のような次第で議事  
 に入った。  
 ①平成二十二年度事業報告  
 ②平成二十二年度会計報告  
 及び監査報告  
 ③平成二十三年度事業計画  
 ④平成二十三年度予算案  
 ⑤平成二十四年度総会・新  
 年会の日時・場所につい  
 て

⑥支部役員の改選について  
 ⑦その他 支部のホームページについて  
 右記の順に報告や提案があ  
 り、順次承認された。特に、  
 ⑤の来年度の総会・場所につ  
 いては、前橋市の開催が提案  
 されたが、時間帯は、昼間に  
 行った方がよいという意見と  
 夜の方が出席しやすいという  
 意見が出され、役員会で検討  
 することになった。最後に物  
 故者への黙祷を捧げて、総会  
 は閉会した。  
 講演会は、二松學舎大学名  
 誉教授で、松苓会本部副会長  
 でもある松田存先生より、能  
 楽についての説明や海外公演  
 についてのお話を伺う予定で  
 あったが、時間が無くなって  
 しまったために、ご挨拶と資  
 料を頂いたのみとなってしま  
 った。真に残念なことであっ  
 た。  
 新年会の前に、出席者全員  
 による自己紹介が行われ、そ  
 の後、深澤相談役による乾杯  
 で新年会が始まった。祝宴・  
 懇談と続き、来賓の松田先生  
 を含む参加者全員の近況報告  
 も行われ、和やかに宴は進め  
 られた。

畑仕事や孫の世話などの話題に加え、俳句や書道、能や謡いなど二松學舎の同窓生ならではの話題で盛り上がり、時間の経つのも忘れてしまうくらいであった。最後に記念撮影をし、中里相談役の締めで新年会は、午後七時にお開きとなった。

### ◆千葉眞支部

支部長 辻 将一

八月二十一日(土)、午後三時から、千葉市中央区市場町の喫茶「ボンヴィル」にて千葉県支部総会が開かれ二十名の方々が出席されました。前田康晴(49期)副支部長の司会のもと、まず副支部長の簡野泉さんが開会のことは述べられました。

次いで辻将一支部長が挨拶に立ち、「昨年の総会で支部長を仰せつかり、支部の方々の希望をうかがいながら、同窓としての交流の機会を楽しみたいものにしていただければと願っています。」との話がありました。

そして、議長に前田副支部長を選出して、議事となりま

した。平成二十一年度事業報告・収支報告・監査報告とすみ、承認されました。

平成二十二年度の事業計画及び役員・地区長の交代については、辻支部長から説明があり、「支部の人たちの交流を大切にするために世代別の幹事役をお願いしたいと考えていますが、少し時間をかけてやっていきたいので私に一人任いただきたい。」と期待をこめられ、承認されました。

その他の新役員には土屋誠(50期)さんが事務局長に、東葛支部長には金子和男(57期)さんが就任、顧問には浅井昭治(専18)さんが推挙され、お引き受けいただきました。今年度の総会には来賓として本部より平田雅利副会長、東京支部より木村正雄支部長と矢澤喜成副支部長、神奈川県支部より廣田克己支部長の代理として中川俊一郎さんが御出席くださいました。ありがとうございます。

### ◆富山県支部

支部長 芳尾 晴喜

松苓会富山県支部は平成

22年3月20日(土)富山市内のKKR富山銀嶺で、支部の今後の在り方について話し合うべく懇親の会を開いた。

当日は北陸の3月としては異常ともいえる、気温20℃を悠に超える夏日という日であった。参加者は支部長を含め4名、小堀隆洋(文37期)、小島貴雄(文47期)、山内寧(文52期)、芳尾晴喜(文27期)の諸氏であった。

返信葉書同封で45通案内発送し返信18通、居所不明5通が返って来た。残り22通は返事なしで頗る低調であった。

15時より意見交換に入り話し合いを持った本部の意向としては支部会報の発行など活発な活動を要望されているが当支部の現状では困難であるので当面一人でも機会あるごとに誘い掛けて、小規模な茶話会形式で継続して親睦を深めてゆく事。出来れば本部或いは大学よりの参加を要請する、などの提起があった。

又返信葉書の中には同窓の人達の活躍されている近況の様子が記されているのが寄せられていて少なからず今後への期待が持たれた。



16時頃より懇親の宴に入り各自の在学時代の話題や校舎の変遷の事、或いは小堀氏

の轍道部で活躍され現在も交流を持たれている話など和やかな雰囲気の中に17時30分終宴となり再会を約して解散となった。

尚、平成23年より支部長を小島貴雄氏にお願いする事になったのでお知らせします。

平成22年度富山県支部総会出席者  
芳尾 晴喜  
(支部長・文27期)

小堀 隆洋(文37期)  
小島 貴雄(文47期)  
山内 寧(文52期)

二〇一一年(平成二十三年)一月二十七日木曜日の東京新聞千葉中央版記事より

### 戸定が丘歴史公園与謝野晶子の歌碑

歌人の与謝野晶子(一八七八〜一九四二年)が、松戸市で詠んだ十八首と夫の寛(鉄幹、一八七三〜一九三五年)が詠んだ一首が、同市の戸定(とじょう)が丘歴史公園の散策路で歌碑になった。散策路は晶子が好きな花を詠んだ短歌にちなんで「ひなげしの小径(こみち)」と名付けられ、一月二十七日に除幕式が行われた。

歌碑は、ポランティアで同公園などを案内する「松戸シティガイド」(石上瑠美子会長)がガイド創立十周年を記念して計画した。公園内にある十九基のフットライト(高さ約六十センチ、幅約四十五



センチの白御影石製)に一首ずつ掲げている。

晶子は一九二四年夏に戸田が丘の県立高等園芸学校(現千葉大園芸学部)を訪れて、六十首の短歌を詠み文芸雑誌「明星」などに発表した。園芸学部の構内には市民の募金で一昨年に建てた晶子の歌碑がある。

当時、募金活動の中心となつた石上さんらが歌碑を増やしたいと考え、園芸学部に隣接する同公園のフットライトにも設置してはどうか、と市に提案した。フットライトは九一年の開園後、一度も使われていないことに目を付けて実現させた。

十九首の歌碑は松戸シテイガイド会員の投票で、晶子が詠んだ六十首の内、「ひなげしと遠く異なる身となりぬ松戸の丘に寄りて思へば」など十八首と鉄幹の「いろいろの波斯(ペルシャ)のきれを切りはめて丘に掛けたる初夏の畑」を選んだ。

日展評議員の石飛博光さんら市にゆかりのある著名な書道家十九人が無償で二人の歌を揮毫(きごう)した。これ

を赤御影石に刻み、金属製の説明板とともにフットライトに取り付けた。除幕式は午前十一時から行われ、揮毫した書道家らも出席する。同公園は面積二・三ヘクタールで、水戸藩最後の藩主徳川昭武が住まいとした一八八四年建築の「戸定邸」(国指定重要文化財)や「戸定歴史館」などがある。松戸駅東口から徒歩十分。

平成二十三年(二〇一一年)二月五日土曜日(ゆゆうか)りタイムス記事より

松戸シテイガイド(会長・石上瑠美子氏)の発足10年の記念事業として与謝野晶子が松戸で詠んだ歌(歌集「瑠璃光」に60首掲載)の中から18首を選び松戸ゆかりの18人の書家が書き、石盤(縦31cm×横45cm)に彫って『戸定邸』(将軍・慶喜の住居跡)の歴史公園に設置するといふ企画が持ち上がった。

揮毫のメンバーの一人には源川彦峰氏(西馬橋1丁目在住)が選ばれた。彦峰氏の書いた歌は「夏の花漫りに咲くとなげくなりいつより心変り

はてけん」が晶子が茲を訪れた時には夏の花が咲き乱れ、そこに蝶が乱舞していたことを想定して書作の余白にアゲハチョウの版画(彦峰氏の自

### 二松學舎松苓会奨学生として

国際政治経済学部国際政治経済学科四年 岩崎 朋子

「向き不向きではなく前向きに」この言葉は私の一番好きな言葉であり、モットーでもあります。だからこそ、金

刻)を押してある。素敵な色合いの赤御影石に一段と風趣を醸し出している。除幕式は1月27日、戸定邸で行われた。

銭的に大学進学が厳しい中でも、それを理由に諦める事は出来ませんでした。他の方のように教員になりたいとかやりたい事があるわけではなく、とりわけ勉強が出来るタイプでもない私でしたが「今、大学進学を諦めたら絶対に後悔する」という気持ちだけはありました。

一見すると甘い動機に思えるかも知れませんが、でも一歩踏み出してしまつたら、後は前に進む以外の道はありません。いつか過去を振り返った時に今の自分が選んだ道が正しいと思えるように大学入学後は只がむしやらに生活して

いました。多くの方が経験しているようにアルバイトと勉学の両立は想像以上に厳しい現実があります。

しかし、学費の為にやっているアルバイトが忙しいからという理由で勉学を手抜きする事は大学に進学した意味がありません。貧しかった分、その気持ちは人一倍あったので、時間がない中でも勉学には真面目に取り組み、結果として一つも単位を落とす事なく四年目を迎え、昨今の不況の中でも企業から内定を頂く事ができました。

こうして全てが順調に進んでゆくと思っていた中で、父親の失業や自身の就職活動の長期化による収入減少で学生生活最後の学費納付が難しい状況になってしまいました。内定を頂いていても卒業できなければ取り消しになってしまふように、何とか学費を工面しようとして新しいアルバイト先を見つけようとしたのですが、やはり四年生という理由で断られ、もうどうにもならない状況まで追い込まれてしまいました。

そうした中で、学内の掲示板で今回の二松學舎松苓会奨学生の貼紙を見し、必死の思いで応募させて頂きました。選考会の際は自身の家庭環



境を話す事が想像以上にたくさん、言葉が詰まらせる場面が多々起きてしまいました。自分の気持ちも素直に話し結果として奨学生として採用されるまでに至りました。

常日頃から先生方や友人など私を支えてくれている周囲の方々には感謝していました。が今回の件ではより一層その事を感じる事ができました。

国際政治経済学部国際政治経済学科四年 佐藤 亜子

卒業式まで残すところ後二カ月を切った今、私は無事、二松學舎松苓會奨学生としてその晴れの日を迎えようとしています。級友たちと共に、最後の学生生活を全うすることができ、その喜びをかみ締めながらこうして今を過ごしているのも、ひとえに松苓會の皆様方のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。

特に松苓會の皆様には頭が下がります。一杯です。

これからは社会人の一人として羽ばたくわけですが二松學舎の卒業生として、また二松學舎大学松苓會奨学生として恥じないよう精一杯頑張りたいと思います。

今回は本当にありがとうございます。

た。

そんな折、身の回りの様々な人の支えを受け、こうして無事、ようやく卒業まで漕ぎ着けることができました。二松學舎大学に入学して、本当に良かったと心の底から思います。

面接の当日は、たくさん

先生方を目の前に緊張してしまい、お伝えしなかったことの半分も口に出せなかったと思います。それでも、私のありのままの気持ちと現状とを汲み取って下さった先生方、また、親身になって相談にのって下さった授業課の方にも感謝の気持ちで一杯です。

松苓會奨学生授与式を終えて

国際政治経済学部国際政治経済学科四年 柚木 順一

そして何より、授与式を経た今、頂いた証書を見ていると、この学び舎を先に巣立っていかれた多くの先輩方が、私を手助けして下さいました。と改めて実感して胸が熱くなります。

この度ご支援賜った多くの方々にあつく御礼申し上げますと同時に、このご恩を忘れず

卒業式を迎えるにあたって

今、私が学生生活を無事に終えることができることは大変嬉しいことで、家族共々たいへん喜んでおります。これも松苓會の皆様方のお力添えによるもので無事に大学を卒業することができました。

心より感謝申し上げます。大学3年次の新学期が始まってすぐのことでした。父が突然の入院で収入が減り家計状況が厳しいものとなりました。父の病気の状況も肺がんで治療が出来ない状況にあり、母のパート収入で何とか生活して安心させたいというのもあり

二松學舎の卒業生、松苓會の一員としての誇りをもって、これからも日々邁進していきたいです。

そして、この度は本当に、本当にありがとうございます。これから先も、今の気持ちを忘れないようにしていきたいです。ありがとうございます。

就職活動に力を入れて一生懸命に取り組みました。

自分のやりたい仕事は何か。その時私にはわかりませんでした。活動を続けていき、何度も悩みながら自分の将来を見つめ直し、ようやく納得のいく就職先から内定をいただき、ひと安心することができました。両親共に大変喜んで祝ってくれたことを今でもよく覚えています。

4年次になり、自分自身アルバイトのシフトを増やして忙しい日々を過ごしてまいりました。母の収入で生活費と学費を支払っていくのが難しい状況にあったので少しでも自分

で学費を貯えていこうと頑張っていました。父が亡くなり月々の支払い等が依然厳しくなり、学費を納めるのが難しくなり困っていました。授業課の方に分納で学費を納めたいと相談していく中で松苓會奨学生募集があることを教えていただき応募することに決めました。

面接ではたくさん先生方がいる中で質問等を受け、いろいろお話を聞いて下さったことにも心から感謝申し上げます。

改めてたくさん先生方があったからこそ、私は卒業できたのと実感し支えてくれた方々がいたのだと深く心に刻まれました。

この御恩を忘れることなく立派な社会人へ成長したいと思います。本当にありがとうございます。